

昨年度秋から時差出勤を導入

サンユー工業
株式会社(大津町室)

導入前

勤務形態

導入後

8:20 ~ 17:10

① 7:20 ~ 16:10
② 8:20 ~ 17:10
③ 9:20 ~ 18:10

Q 時差出勤を導入するきっかけは？

A 近年、周辺道路の渋滞に悩まされていました。そんな時、国が発表した「働き方改革」を受けて、時差出勤に取り組みました。時差出勤の導入にあたっては、事前に従業員へのアンケートの実施や作業工程に問題がないか調査を行うなど、半年かけて準備を行いました。

Q 時差出勤を導入してどうだった？

A 業務申し送り時の管理職のスケジュールや出退勤システムの調整が必要でしたが、特段大変なことはなく、むしろ従業員の満足度が上がったことで、会社としてもメリットがあったと思っています。

現場の声

帰り道にカフェに寄ることもできて嬉しいとの声もあります。

技術管理課 Y さん ①勤務 熊本市南区から通勤



最もありがたく感じているのは、終業後に自分時間を多く持てるようになったことです。帰宅途中の買い物を含めて就寝まで生活にゆとりが生まれました。また、以前は帰宅時ラッシュに巻き込まれ渋滞のストレスがありましたが、それも軽減することができています。

検査課 U さん ③勤務 菊陽町から通勤

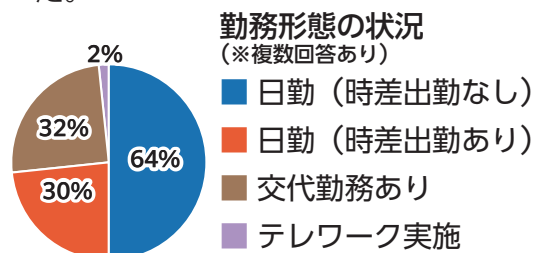


朝ゆっくりできるのは嬉しいですね。もともと夜間勤務で、朝早いのは苦手だったこともあり、遅出の出勤はありがたいです。退勤が遅くなった分、寄りたいお店に寄れないこともあります。朝から渋滞にはまると30分は時間をロスするうえに、運転時間が長いと、その分事故などの危険性も上がるので、安全面を考えても良かったと思います。

時差出勤

事業所全体または一部の始業時間と終業時間を変更し、交通量を分散する方式。

今年5月に大津町企業連絡協議会会員企業を対象に時差出勤の取組状況についてアンケート調査を実施した結果、およそ30%の企業が時差出勤を実施している結果となりました。

フレックス
タイム制度

労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることによって、生活と業務との調和を図りながら効率的に働くことができる制度。町内でもこの制度に取り組んでいる企業が複数社あります。

渋滞情報の共有

運送事業者では社内間で渋滞情報を共有し、分散できるよう取り組んでいます。



テレワーク

製造業やサービス業など取り組みが難しい職種もありますが、状況によっては取り入れる企業も。



このような取り組みが広がるよう、町からも企業に向けてPRしていきます。

渋滞への取り組みは、行政だけではなく町内企業でも行われています。

渋滞対策さまざまな取り組み

渋滞対策 加速化へ

増える車
増える人口、

たくさんの企業が集積する大津町周辺。最近台湾の大手半導体企業や関連企業の進出によって、より一層経済活動が活発になってきました。企業が増え、町に活気が溢れる一方、朝夕の出勤・退勤時間帯を中心に交通渋滞が発生しています。

そのため、町では信号制御に向けた警察との協議や、交通量調査をもとにした道路整備計画の検討を行っています。

また、国や県でも道路整備などのハード対策に取り組んでいますが、完成までに時間を要するため、近年の急激な車の増加に追いついていないのが現状です。

そこで、町では公共交通（電車やバスなど）を活用することで車両台数を減らし、大津町や周辺地域の渋滞問題の解消に向けて取り組んでいます。

その一環で、10月からは、肥後大津駅から本田技研工業株式会社熊本製作所の区間で通勤バスを運行します。

町の取り組み

町道三吉原北出口線多車線化

県立翔陽高校前の町道三吉原北出口線のおよそ1キロを多車線化するため、概略設計に着手しました。令和10年度の完成を目指します。

町の取り組み

信号制御

信号制御により、特に交通量が増加し、渋滞が発生している交差点1カ所において、最大渋滞長が410メートルから170メートルまで短縮されました。

国の取り組み

中九州横断道路整備

令和6年度に熊本市と大分市を結ぶ中九州横断道路のうち、大津町の4.8キロの区間について国の事業化が決定しました。



県の取り組み

県道大津植木線の多車線化

国道325号の大津町室北にある交差点から合志ICアクセス道路までの約4.7キロを多車線化する計画です。

